



瑞中だより

学校だより 第12号

平成29年 12月22日

瑞穂町立瑞穂中学校

〒190-1211 瑞穂町石畑 1961-1

TEL 042-557-0070

トーク&チョーク&ジョークからの脱却

校長 池谷 芳彦

学校の先生、とりわけ小学校の先生の中には板書が上手な方が多い。小学校の研究授業等を見に行く度に感心する。中学校でもチョークの魔術師と言えるような先生はたくさんいる。また、最近は、黒板アートなるものも流行っているようで、黒板とチョークによる豊かな表現力に驚かされる。学校の教室に黒板とチョークはなくてはならないアイテムであり、コストパフォーマンスにも優れている。その一方で、学校以外の場所では、黒板とチョークをあまり見かけなくなった。企業を含め多くの場所で、ホワイトボードとマーカーペンが普及した。ホワイトボードは、プロジェクターの映像を映し出すスクリーンとしても利用しやすい。

さて、平成22年に文部科学省は「教育の情報化に関する手引き」を出した。その中で「情報教育」をはじめ「教科指導におけるICTの活用」や「校務の情報化」を含めた3点が教育の情報化として示された。その当時、私はちょうど校舎改築を控えていた学校に赴任していたので、改築検討委員会の一員であった。検討委員会では、新しい校舎の建設にあたり意見や要望が出され、様々な夢も語られた。ICT機器の導入も期待された。図書室はメディアセンターとして従来のパソコン室と一体化させる。給食は教室ではなく多目的に利用できるランチルームで食べる。校舎の木質化を進め、木材をふんだんに使った温かみのある教室にする。体育館には冷暖房の空調設備など。挙げればきりが無いが、黒板のホワイトボード化は実現しなかったことをよく覚えている。普通教室には黒板が標準的な仕様らしい。また、磁石付きのスクリーンを貼れば、ホワイトボードらしく使えるということだった。それから7年以上たち、この間のICT機器の進化は目覚ましいものがある。携帯電話の進化を見ても明らかだ。

今や中学生のスマートフォン所有率は5割を越え、数年前にはほとんど持っていなかった小学生でも4人に1人が所有。高校生では所有が当たり前の時代となった。高校や大学の中には、自宅での予習はオンライン動画を使って授業を受け、教室ではグループディスカッションなど、実践的な学習を行う「反転授業」というものを行っている学校もある。一方で、スマホの活用はゲームやSNSばかりで、、、SNSいじめ、片時もスマホを手放せない依存症などの弊害もあり、現在、ほとんどの中学校では持ち込み禁止としている。今後、スマホネイティブ世代となる子供たちだからこそ、黒板とチョーク、鉛筆とノートでの学習が必要であるという意見もあれば、最新のタブレットPC等を積極的に導入し、教室のICT化を加速すべきという意見もあり、学校現場は悩ましい。確かに、勉強アプリを活用した学習、例えば発音を音声で聞ける英単語アプリなどは、ゲーム感覚で楽しみながら英単語を学習できる。教科書などの文字情報だけではイメージしづらい内容も、動画やシミュレーションを交えての解説や、動画&音声という機能をフル活用して効率的に学習できる。ICT機器を有効活用した研究授業(理科)を参観したことがある。電子黒板による教科書や資料の拡大表示、動画の視聴は、生徒の関心・意欲を高めていた。実験の方法や手順、留意点等の具体的な理解にも有効だ。さらに、結果の考察を行う場面では、協働学習支援ソフトを活用し、班毎の結果や考察を共有しながら発表資料を作成していた。私がまだ初任の頃、説明→準備→実験→考察→まとめ を3時間(3コマ)で一週間もかけていたが、その授業ではたった1コマできていた。また、かつて、発表といえば模造紙にマジックだったが、今や、生徒がプレゼンテーションソフトを使いこなしての発表である。ただし、学習内容の定着率については顕著には上がらないという報告もあり、授業内容の工夫はもちろん授業改善は欠かせないということだ。教室のICT化を一気に進めた上海の学校では、子供の近視の増加や筆圧の低下に加え、身体や精神に与えるマイナス要因も報告されている。ICT機器の過剰使用は弊害をもたらすようだ。

私自身が生徒の頃は、教師の講話や時折の脱線話、また、板書内容をひたすらノートに書き写す授業に慣れ親しんでいた。いわゆるトーク&チョーク型の授業が普通であり、たまにジョークで大笑いできる先生が大好きだった。偏差値全盛期であり、ペーパーテストで高得点を取ることが望まれた。学力の高さが知識量で測られていたと思う。知識偏重型の当時の勉強が無駄だったとは思わないが、これからの未来を担う子供たちには、知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる資質・能力を育んでいかなければならない。子供たちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが求められている。本校でも、教師一人一人が授業改善に立ち回り、新学習指導要領を踏まえたアクティブ・ラーニングにつながる生徒主体の授業展開を目指している。それは、思考させ、表現させる授業への改善だ。そのためにも、各教科でICT機器を活用した生徒の「情報活用能力の育成」が重要である。

これからの学校では、黒板とチョークを活かすICT機器を使わない情報活用能力の育成、すなわち、辞書や図鑑、資料集、新聞等を使って様々な情報を読み取ったり、インタビューで情報収集したり、ノートなどで情報を

整理し、発表内容を構成する活動と、ICT機器を使った情報活用能力の育成、すなわち、生徒がICT機器を含む情報通信手段を主体的・積極的に活用するための学習活動とをバランスよく行っていくことが大切である。また、生徒の学力向上のためには、教師が授業内容を分かりやすく指導する場面でのICT機器の活用に加え、一斉学習だけでなく、生徒一人一人の到達度に応じた練習問題や予習・復習のためのデジタル教材の活用やICT機器による学習の支援が有効である。

トピックス



12/初～中旬

平成30年1月12日の新入生保護者説明会や小学生瑞徳中見学会等で上映するため、生徒会役員が部活動の風景を撮影してくれました。



12/11(月)

1年生保護者会・スキー移動教室の説明会が行われました。年末の多忙な中、また教育相談期間直後にもかかわらず多数のご出席をいただき、ありがとうございました。



12/12(火)

空調工事を経て、瑞穂中学校図書館がリニューアルオープンしました。天井のボードも張り替えられたため、明るくなりました。再オープンを待ち望んでいた生徒が多く集まり、活気あふれる学校図書館に戻りました。まだ、空調設備を使うことはできないため、今冬の暖房は、他教室と同じく、灯油ストーブでの対応です。



12/14(木)

2年生で、「My Future Dream (私の将来の夢)」と題し、個々が作成した英作文のスピーチ発表会が行われました。2年生全員の前で、身振り手振りをつけながら発表しました。

冬季休業中の緊急連絡先について

- 学校閉庁日でない冬季休業日(平成29年12月28日まで及び平成30年1月4日以降の冬季休業日)
 - ◆緊急連絡先 ➡ 瑞穂中学校 電話:042-557-0070(従来どおり)
- 学校閉庁日の冬季休業日(平成29年12月29日～平成30年1月3日の冬季休業日)
 - ◆緊急連絡先 ➡ 瑞穂町役場 電話:042-557-0501(今冬から対応)

※ただし、緊急の場合に限ります。

今年一年、保護者・地域の皆様には大変お世話になりました。来年もよろしくお願い申し上げます。